

つくしSTジャーナル

三重つくし診療所リハビリセンター

文責：言語聴覚士 一ノ木佳奈



『つくしSTジャーナル』第2号です！

三重つくし診療所リハビリセンター言語聴覚士の一ノ木佳奈です。

今年は6月14日の梅雨入りから、6月27日の梅雨明けまでが13日間と、過去最短だったそうですね。連日暑い日が続いていますが、皆さま体調はお変わりありませんでしょうか。

当事業所においても、利用者様・ご家族様の熱中症予防として、水分摂取や室温管理などについてもお声がけをさせていただきながら、訪問リハビリでの支援を精一杯させていただいております！

“

今回のお便りでは嚥下障害と脳卒中をテーマにさせていただきました。

嚥下障害とは

嚥下とは、口に入れた飲食物を咀嚼し、胃まで送り込む一連の動作を指します。

嚥下にかかわる口、咽頭、喉頭の筋肉や神経の機能が阻害されると、飲み込む動作に障害が起こります。これを嚥下障害といいます。

脳卒中と嚥下障害



嚥下障害の原因疾患の約40%が脳卒中であるといわれています。一方、脳卒中に罹患した患者さんのうち急性期には約30%の患者さんに誤嚥が認められ、慢性期まで誤嚥が残存する患者さんは全体の約5%程度といわれています。日本では年間約40万人が脳卒中を発症していると推計され、毎年約2万人の摂食嚥下障害の患者さんが新たに生じていることとなります。

夏は「脳梗塞」に要注意！



脳卒中の多くを占める脳梗塞は、血圧が高くなる冬の病気と思われがちですが、夏に発症することが多いという報告があります。それは、水分不足にともなう脱水が関係していると考えられています。脱水を起こすと血液中の水分が減少して、血流が悪くなります。すると、血栓ができやすくなり、血管が詰まって脳梗塞を起こす危険性が高まります。

また、気温が高くなると、体温を下げるために血管が拡張します。血管が拡張すると血液の流れが遅くなるため、脱水を起こしていなくても血栓ができやすくなります。

十分水分補給をして夏場の脳梗塞を防ぎましょう

言語聴覚士の訪問リハビリって？

言語聴覚士とは

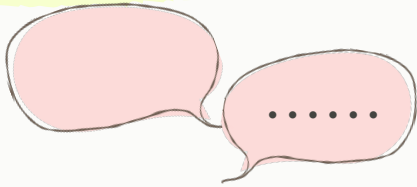
- ▶コミュニケーション能力の障害（言語障害、聴覚障害、吃音など）
- ▶高次脳機能障害（注意力、記憶、判断力などの低下）
- ▶嚥下障害（食べることに関する機能の低下）

等に対するリハビリを行う国家資格です。

言語聴覚士は Speech Therapist の略称でSTと呼ばれています。



言いたいことがうまく言葉にならない、
相手の言っていることへの理解が難しい**失語症**の方



失語症による発語の障害、理解障害、書字障害など
に対するリハビリを行います。

また、ご家族に対してコミュニケーション方法の
指導をさせていただきます。

呂律が回りづらい、声が出しづらいなどの
構音障害、音声障害の方



舌や唇のトレーニング、発声練習や呼吸練習
などのリハビリを行います。

難病の方に対するコミュニケーションツールの
指導を行います。

飲み込みにくい、むせやすいなどの
嚥下障害の方



飲み込みの機能を確認し、誤嚥を防ぐリハビリを
行います。

また、食材の適切な大きさや調理方法、安全な食事
姿勢についての指導を行います。

集中力や記憶力の低下など、
高次脳機能障害の方



注意訓練や記憶訓練、遂行機能訓練など、高次
脳機能にかかわるリハビリを行います。

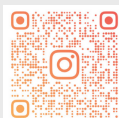
復職を目指す方のリハビリも対応させていた
だきます。

当事業所の言語聴覚士の訪問リハビリでは、上
記の症状でお困りの方に対し、ご自宅や施設で
リハビリをさせていただきます。
お気軽にお問い合わせください。

言語聴覚士 一ノ木 佳奈



Instagram
@st.1_mie_p5



株式会社 P5

三重つくし診療所リハビリセンター



080-6910-8620



059-235-2090



p5.k.nakada@gmail.com



<https://p5-inc.jimdo.com/>



Instagram
@p5_inc.official

